

令和6年度 宇和島市地域づくり団体活動補助金

-事例集-

1. 補助金交付件数（全体）
2. 補助金交付件数（分野別）
3. 補助金交付件数（補助率別）
4. 事例紹介

令和6年度補助金交付件数

No.	団体名（※市登録NPO団体）	補助事業名	補助事業区分	補助率
01	れんげの郷実行委員会	れんげの郷ふれあい環境活動	地域コミュニティの活性化	一般事業（2/3）
02	NPO harmoni〜ハルモニ〜	岩松 阿部邸活用プロジェクト	地域コミュニティの活性化	開設・拡大事業（3/4）
03	100万人の線香花火ナイトin宇和島実行委員会	100万人の線香花火ナイト	その他（市長が特に認めるもの）	特認事業（10/10）
04	てくてく	子ども食堂でフィッシュガールのお魚解体プロジェクト	青少年の健全育成・子育て支援	一般事業（2/3）
05	BISAI-FARM	災害に強い田舎づくり～災害時に野菜が食べれる仕組みづくり～	その他地域づくり	特認事業（10/10）
06	（一社）宇和島SDGs社会教育事業団	第3回 SDGs貝絵アート展示会・コンテスト（宇和島園域小中学校）	その他（市長が特に認めるもの）	特認事業（10/10）
07	（特非）スペースゆう とも会の会	みんなのカフェ	高齢者福祉・生活支援	一般事業（2/3）
08	宇和島子どもクリエイティブまちづくり	クリエイティブ日振島！2024	青少年の健全育成・子育て支援	特認事業（10/10）
09	MIMA森プロジェクト	みま里山クウカン実験	地域コミュニティの活性化	開設・拡大事業（3/4）
10	（特非）SO-EN	宇和島エシカルプロジェクト	青少年の健全育成・子育て支援	開設・拡大事業（3/4）
11	（特非）U.grandma Japan	ばくパーク2	その他地域づくり	開設・拡大事業（3/4）
12	みまプロジェクト	みまプロジェクト	地域コミュニティの活性化	人材拡充事業（4/5）
13	浦知地区活性化協議会	わくわくサポート2024	地域コミュニティの活性化	特認事業（10/10）
14	アソビゴコロ	アソビゴコロ活動拡大事業	青少年の健全育成・子育て支援	開設・拡大事業（3/4）
15	（特非）宇和島NPOセンター	NPO交流会&語り部の会	地域コミュニティの活性化	特認事業（10/10）
16	宇和海遊漁船団体	宇和海フェス2025 ～輝く宇和海いとこフェスタ～	地域環境の保全	開設・拡大事業（3/4）

事業名：れんげの郷ふれあい環境活動

■事業概要

【事業目的】

休耕地の存続・確保に努め、過疎化の減速、集落・農地の荒廃を防ぐとともに、市街地からの来客者の増加を図る。

■事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年4月3日～令和7年2月28日

【総事業費】

177,360円

【補助金交付決定額】

118,000円

【補助率】

一般事業（2/3）

■事業内容・成果

①れんげ祭、収穫祭の開催

【取組内容】

津島町槇川地区の休耕地を活用し、広大な田畑をフィールドとした「れんげ祭」を開催。また、秋には収穫祭として、芋掘り体験も実施。

【成果】

市内外から述べ2,000人が来場し、家族連れをはじめとする多世代が山間地域の自然や農地に触れる機会を創出し、地域住民と来訪者が地域の魅力を共有する場となり、交流人口の拡大と地域資源を生かした協働の広がりづくりにつながった。



②休耕地の維持管理・道路環境整備

【取組内容】

イベント開催に合わせ、会場周辺の草刈作業を実施。

【成果】

休耕地の荒廃防止と中山間地域の景観・受入環境の維持に寄与した。地域住民が役割を分担して環境整備に取り組むことで、地域を自ら守り育てる協働の意識醸成につながった。



団体名・連絡先

【団体名】

れんげの郷実行委員会

【団体連絡先】

(mail) — (電話番号) 090-8977-9775

事業名：岩松 阿部邸活用プロジェクト

■ 事業概要

【事業目的】

重要伝統的建造物群保存地区（津島町岩松地区）にある旧阿部酒造を活用し、多世代間や地元内外の人々が関わる交流経拠点・滞在拠点を形成する。

歴史的資源を核としたにぎわいの創出、関係人口の拡大、多様な主体がつながる協働の土台づくりを目指す。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年4月21日～令和7年3月31日

【総事業費】

683,077円

【補助金交付決定額】

420,000円

【補助率】

開設・拡大事業（3/4）

■ 事業内容・成果

① 地域コミュニティ拠点の運営

【取組内容】

阿部邸を地域コミュニティの拠点として活用し、年間約2,200人が来訪。多世代間や地元内外の人々の交流イベントとして、「ハルモニのタベ」や「大正浪漫カフェ」を開催。

【成果】

阿部邸を核に多世代・地域内外の人々が交わる交流拠点の形成につながった。歴史的資源を活かした居場所づくりにより、地域住民と来訪者が継続的に関わる場が生まれた。



② 農林漁家民宿の運営

【取組内容】

地域で活動するまちづくり団体（市登録NPO団体等）と連携し、外部からの受入人材の宿泊施設として活用した。

【成果】

浦知地区活性化協議会（市登録NPO団体）が受け入れた、JICAサポート者の長期滞在場所として活用され、地域内外の人材交流が進み、地域活動を支える受援力の向上と協働ネットワークの拡充に寄与した。



団体名・連絡先

【団体名】

NPO harmoni～ハルモニ～

【団体連絡先】

(mail) hahatokoaya@gmail.com （電話番号）090-9557-0480

事業名：100万人の線香花火ナイト

■ 事業概要

【事業目的】

全国各地で一斉に線香花火を灯し、亡くなられた人々を偲ぶとともに、被災地や各地との絆を深める活動として継続することで、災害を風化させず、防災をジブンゴトとして学ぶ機会を創出する。

併せて、企業・団体・学校・市民が平時からつながる契機をつくり、支え合うことができる協働のまちづくりにつなげる。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年6月1日～令和7年3月31日

【総事業費】

344,047円

【補助金交付決定額】

330,000円

【補助率】

特認事業（10/10）

■ 事業内容・成果

【取組内容】

平成30年7月豪雨災害を被災した7月7日に、宇和島市吉田伊達広場にて開催。

神戸から分灯され、岩手県陸前高田市から届いた「1.17希望の灯」を灯す。

東日本大震災が発生した3月11日及びお盆前の8月11日にも灯し、全国各地の人と人をオンライン（SNS、Zoom等）でつなげ、全国各地とのつながりを意識し、開催した。

【成果】

各開催を通じて、防災をジブンゴトとして捉える当事者意識の醸成につながり、過去の災害を風化させない学びと追悼の場となった。

また、地域で活動するまちづくり団体や学生、企業等が活動に参加することで、一人ひとりが地域コミュニティの大切さへ気づききっかけとなったとともに、平時から支え合える関係づくりと協働の基盤強化に寄与した。



団体名・連絡先

【団体名】

100万人の線香花火ナイトin宇和島実行委員会

【団体連絡先】

(mail) il_fiore@vesta.ocn.ne.jp （電話番号）090-5141-7422

事業名：子ども食堂でフィッシュガールのお魚解体プロジェクト

■ 事業概要

【事業目的】

核家族化や共働き世帯の増加、地域における近隣同士の人と人との関わりが希薄になる中、「食」を介して高齢者から子どもまでもが、楽しみながら交流できる場を創出する。

併せて、宇和島水産高校フィッシュガールとの連携により、青少年が地域で役割を担い、多世代間で子どもを育むことができる関係づくりを目指す。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年7月1日～令和7年1月29日

【総事業費】

784,830円

【補助金交付決定額】

500,000円

【補助率】

特認事業（10/10）※上限500,000円

■ 事業内容・成果

子ども食堂とフィッシュガールの協働による地域交流の促進

【取組内容】

宇和島水産高校フィッシュガールによるマグロ解体ショーの開催、子ども食堂と連携した「真鯛さばき体験」や、高校生が考案した真鯛メニューのレシピも活用した地域産品である「真鯛」づくしの子ども食堂を開催した。

【成果】

述べ435名が参加し、地元産品や水産業への関心を深める機会となった。

高校生、子ども食堂、地域住民が、食を通じて関わることで、世代を超えた交流と食育が進み、高校生が地域で役割を担う実践の場にもなり、地域で子どもを育てつ協働の関係づくりと次世代の担い手育成に寄与した。



団体名・連絡先

【団体名】

てくてく

【団体連絡先】

(mail) 非公開 (電話番号) 090-7577-4141

事業名：災害に強い田舎づくり～災害時に野菜が食べれる仕組みづくり～

■ 事業目的

【事業目的】

① 災害時に野菜が不足しない体制づくり

宇和島市の避難所近くにある津波想定区域外の耕作放棄地を活用し、災害時にも野菜を確保・提供できる仕組みを整えることで、地域課題への備えを実践する。

② 平時の食支援と多世代交流の促進

平時から、子ども食堂やひとり親家庭へ野菜を提供し、地域住民が関わる交流を促進することで、子どもが高齢者から「生き延びる力」を学ぶきっかけをつくる。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年5月1日～令和7年3月31日

【総事業費】

500,980円

【補助金交付決定額】

500,000円

【補助率】

特認事業（10/10）※上限500,000円

■ 事業内容・成果

① 災害時に野菜が不足しない体制づくり

【取組内容】

津波想定区域外の耕作放棄地において、草刈り等の整備を行い、栽培可能な環境を整えたほか、定植や栽培管理を、地域の人々の協力を得ながら実施。

【成果】

災害時の野菜確保、提供に向けたに向けた取組み・関係性の構築が推進され、災害時における健康への影響の低減・災害関連死の未然防止につながる連携。

② 平時の食支援と多世代交流の促進

【取組内容】

子ども食堂への野菜の提供やひとり親家庭への支援実施や、収穫祭の開催学生の参加等を通じ、多様な主体が関わる活動機会を創出した。

【成果】

子ども食堂等との連携等を通じ、野菜不足の解消にもつながったほか、地域の人々との交流促進も図られ、災害に強い地域づくりが推進されたほか、多世代交流を通じて地域内の連携強化にも寄与した。



団体名・連絡先

【団体名】

BISAI-FARM

【団体連絡先】

(mail) bisaiuwajima@gmail.com （電話番号）非公開

事業名：第三回SDGs貝絵アート展示会・コンテスト（宇和島圏域小中学校）

■ 事業目的

【事業目的】

①次世代環境教育と創造性の育成

貝殻を「貝絵アート」のキャンパスとして活用する制作体験を通じ、こども達へ3R（リサイクル・リユース・リデュース）の考え方とごみ削減について、体験を通じた学びの場を提供し、環境への関心と創造性を育む。

②地域の発信力強化とコミュニティの活性化

地域資源を活用した作品展示・コンテストを行い、宇和島圏域の魅力発信と地域振興につなげるとともに、学校や地域が連携する協働の機会を広げる。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年7月1日～令和7年3月31日

【総事業費】

451,005円

【補助金交付決定額】

434,000円

【補助率】

特認事業（10/10）

■ 事業内容・成果

①次世代環境教育と創造性の教育

【取組内容】

宇和島圏域の小中学校等へ貝殻キャンパスを配布し、参加校（15校）のほか、幼稚園・高校・絵画教室等の協賛出品をいただき、作品は南楽園のほか宇和島商店街店舗で展示・コンテストを実施した。

【成果】

学校、幼稚園、高校、絵画教室等が参画し、子どもが楽しみながら環境と創造性を学ぶ機会の創出につながり、地域資源を教材として活用することで、学校と地域が連携する協働の学びの場となった。

②地域の賑わい創出と情報発信

【取組内容】

展示終了後、作品はweb特設HPにも掲載し、入賞者には、表彰状・副賞を送付。

【成果】

南楽園や商店街店舗、webを活用し、宇和島圏域の取り組みを広く発信し、地域資源を活かしたアートによる地域振興の推進につながった。



団体名・連絡先

【団体名】

一般社団法人宇和島SDGs社会教育事業団

【団体連絡先】

(mail) 非公開 (電話番号) 090-5277-5705

事業名：みんなのカフェ

■ 事業目的

【事業目的】

① 誰もが集える居場所「みんなのカフェ」

高齢者から障がいのある人まで、誰もが気軽に立ち寄れるコミュニティカフェ「みんなのカフェ」を運営し、日常的な交流から安心して過ごせる居場所を提供する。

② 社会参加・孤立予防の支援、商店街の活性化

高齢者から障がいのある人の社会参加の機会を確保し、地域内のつながりを保ち、孤立を予防するとともに、空店舗の活用と継続的な来所、滞在機会の創出を通じて、商店街の賑わい、活性化につなげる。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年8月1日～令和7年3月31日

【総事業費】

1,547,443円

【補助金交付決定額】

450,000円

【補助率】

一般事業（2/3）

■ 事業内容・成果

【取組内容】

空き店舗を活用した「みんなのカフェ」の運営を実施。

カフェでは、モーニングセットやコーヒー等を提供し、当番制のボランティアスタッフが運営に参加した。

【成果】

利用者との交流を通じて、高齢者の社会参加や生きがいがづくりにつながったほか、高齢者や障がいを抱える人々が気軽に立ち寄れる居場所として定着しつつある。

また、利用者は月間述べ約500名に上り、スタッフや地域住民が役割を持って支え合うことで、地域のつながりと居場所づくりを支えるための拠点形成に寄与した。



団体名・連絡先

【団体名】

NPO法人スペースゆうともの会

【団体連絡先】

(mail) — (電話番号) 090-8571-4248

事業名：クリエイティブ日振島！2024

■ 事業目的

【事業目的】

日振島を主な活動フィールドとして、子どもら「将来に渡り夢をみれる日振島」を合言葉に島の魅力を再認識する機会をつくり、青少年の宇和島愛を育むことを目的とする。

あわせて、市内の子ども達と島の交流活動を企画・実践し、自治会や市内外のNPO、地域住民、学生など多様な主体が事業の企画・実践に参画する協働体制を構築することで、日振島の活性化、人材育成、地域課題の解決に資することを旨とする。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年7月25日～令和7年1月31日

【総事業費】

620,085円

【補助金交付決定額】

500,000円

【補助率】

特認事業（10/10）※上限500,000円

■ 事業内容・成果

① 日振島クリエイティブキャンプ（交流・体験プログラム）

【取組内容】

日振島の子ども達と市内の子ども達との交流キャンプを実施。島の暮らしや特産品であるテングサの減少、海の環境について学ぶ機会や海洋ごみを素材にした制作ワークショップ、ビーチクリーン等を組み合わせて体験的に学ぶプログラムとして実施。

【成果】

島内外・世代間の交流を通じて、日振島の魅力や地域課題を学ぶ機会を創出した。



② 日振島地区の文化継承・担い手づくり

【取組内容】

少子高齢化に伴う島行事縮小の課題を背景に、牛鬼保存会等の協力を得て、アート牛鬼の制作・運行実施、島外の関係者も関わり、伝統文化の継承と新たな担い手参画の機会づくりを実施。

【成果】

若い世代の関心と行動力を活かした取組みにより、伝統文化の継承と地域の活性化につながった。牛鬼保存会や生徒会、地域住民が連携することで地域資源を次世代へとつなぐ協働の実践へとつながった。



団体名・連絡先

【団体名】

宇和島こどもクリエイティブまちづくり

【団体連絡先】

(mail) 非公開 (電話番号) 090-4787-0514

事業名：みま里山クウカン実験

■事業目的

【事業目的】

三間地域における田畑や竹林・森林等からなる里山景観を地域資源として将来世代へ継承する。

また、高齢化や後継者不足等による維持管理が困難になりつつある里山において、地域住民と市内外の関係人口を巻き込んだ協働の仕組みをつくり、里山保全の利活用につなげ、ワークショップや交流機会の創出を通じ、里山を媒介とした地域コミュニティの形成を目指す。

■事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年7月31日～令和6年12月7日

【総事業費】

684,368円

【補助金交付決定額】

500,000円

【補助率】

開設・拡大事業（3/4）※上限500,000円

■事業内容・成果

【取組内容】

里山の放置竹林が課題となる中、学生らも交えながら竹林の現状確認をしながら、竹林整備体験を実施。

竹害の状況を学び、間伐により搬出した竹材を使ったワークショップ（間伐体験・木工体験）を開催。

また、ワークショップを通じて制作した竹明かりを活用し、地域内の中学生をはじめ、自治会の住民も参画したライトアップイベント「竹あかりの宴」を開催。

【成果】

地域住民や地域外の関係者による活動が組成され、三間地区の里山景観・文化の維持保全に向けた環境づくり、関係人口の創出につながった。

地元中高生に加え、市外の高校生や県外の大学生も企画・運営等に参画し、青少年世代の成長と地域コミュニティの活性化に寄与した。また、里山を媒介に課題を共有し、継続的に関わる協働の土台づくりが進んだ。



団体名・連絡先

【団体名】

MIMA森プロジェクト

【団体連絡先】

(mail) stnmwep6442@me.pikara.ne.jp (電話番号) 090-2895-0930

事業名：宇和島エシカルプロジェクト

■ 事業目的

【事業目的】

宇和島市に関わるユース世代（中高生）が、宇和海での体験と学びを通じて得た気づきを発表する場を設け、学びを深めることで、「地域課題解決」をジブンゴトとして捉えるきっかけをつくる。

また、参加者同士の交流を促し、互いの視点や経験が新たな地域課題解決につながるヒントとなる関係性（ユース同士・地域とのつながり）を育むことを目指す。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年9月1日～令和7年3月27日

【総事業費】

719,440円

【補助金交付決定額】

500,000円

【補助率】

開設・拡大事業（3/4）※上限500,000円

■ 事業内容・成果

【取組内容】

宇和島出身者を含む大学生で組織された「ユース達」との共催により、ユース世代による企画・関心に沿ったプログラムを実施。

蔦淵地区での環境共生漁業見学や海岸清掃調査・現地での体験（シーカヤックを活用した海岸清掃・漂流ごみ調査）によって、学生ならではの地域課題解決の気づきの発見につながった。

活動を通して、ユース達による「宇和島youthforum」を開催することで、ユース達の今後の活動方針や様々なステークホルダーが話しあう場を創出した。

【成果】

蔦淵地区をフィールドとした活動によって、学生達と地域の大人等との議論が交わされ、体験を通じた、環境問題に対する当事者意識の醸成が見られた。

「宇和島youthforum」で、「宇和島のきれいな海の実現・持続可能な活動」に向けた提言文が発表され、参加者全体で地域課題の解決に向けて話し合い、ユース世代の思いの強さと実行力が再確認された。



団体名・連絡先

【団体名】

特定非営利活動法人SO-EN

【団体連絡先】

(mail) 非公開 (電話番号) 非公開

事業名：ぱくパーク2

■ 事業目的

【事業目的】

人口減少・少子高齢化・核家族化により地域のつながりづくりが希薄化し、地域課題や防災ニーズが複雑化するなか、「災害時だけ」の備えは無く、平時からの備えと「協働によるコミュニティづくり」の強化を図る。

そのため、うわじま女性防災リーダー（UWDL）が企画リーダーとなり、多様な主体がそれぞれの役割を生かしながら、フェーズフリーの考え方を体験的に学び、「すべての人が住みやすい宇和島市の実現」につなげる。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年8月19日～令和6年10月31日

【総事業費】

985,344円

【補助金交付決定額】

500,000円

【補助率】

開設・拡大事業（3/4）※上限500,000円

■ 事業内容・成果

【取組内容】

UWDL 2期生を中心に体験型フェーズフリーイベント「ぱくパーク2」を企画・運営。「いつも」が「もしも」につながるよう、遊びや身近なものを使って実践できる体験型ブースを出展。

また、各関係機関の協力による資料展示や、来場者がフェーズフリーの気づきを書き込めるボードの設置、持ち帰りカードの作成等により、学びの定着を図った。

併せて、（特非）宇和島NPOセンター主催「防災とボランティアのフェスティバル」が同日・隣接会場で協働開催され、平時から発災後のフェーズまでの理解にもつなげた。

【成果】

述べ500名が来場し、フェーズフリーの考え方を幅広い層に体験的に周知することができ、日常の工夫が災害時にも役立つことを具体的に学ぶ機会となった。

また、行政・社協・NPO団体・企業等が連携することで、防災を入口とした情報や意識の共有と顔の見える関係づくりが進み、平時から支え合う協働の推進へとつながった。

そして、UWDL 2期生にとっても企画運営を通じた担い手育成の実践機会となった。



団体名・連絡先

【団体名】

特定非営利活動法人U.grandma Japan

【団体連絡先】

(mail) info@u-grandma.jp （電話番号）0895-22-0326

事業名：みまプロジェクト

■事業目的

【事業目的】

人口減少による地域衰退の現実が迫っている中、三間町と人とをつなぐハブとしての活動を拡充し、高校生・大学生・観光客等の交流人口・関係人口の拡大を図る。

併せて、地域住民や青少年世代が地域課題を共有し、継続的に関わり続けるための協働の基盤づくりにつなげる。

■事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年11月1日～令和7年3月31日

【総事業費】

563,151円

【補助金交付決定額】

450,000円

【補助率】

人材拡充事業（4/5）

■事業内容・成果

【取組内容】

地域の伝承をもとにした「かっぱツアー※」や「新嘗祭」を開催。
みまプロジェクトメンバーと三間中学校、及び宇和島東高校の生徒が運営に関わり、地域の人や観光客、地元小学生を中心に参加が得られた。

併せて、まちづくりミーティングを開催し、コミュニティスペースの活用方法に関する交流会のほか、まちづくりワークやフィールドワークを行った。

※かっぱツアー：

「みまの昔話」に載っている歴史あるスポットを小学生と一緒に巡るツアー

【成果】

地域イベントを通じて、地域住民・学校・来訪者の交流が促進され、コミュニティ強化や新たなネットワークの形成につながるとともに、地域の魅力を共有する場となり、関係人口の拡大にも寄与した。また、まちづくりミーティングやフィールドワークを通じて、参加者が地域課題をジブンゴトとして捉える機会が生まれ、今後の活動につながる基盤形成が進んだ。



団体名・連絡先

【団体名】

みまプロジェクト

【団体連絡先】

(mail) 非公開 (電話番号) 非公開

事業名：わくわくサポート津島2024

■事業目的

【事業目的】

楽校うらしり(旧浦知小学校)を主な拠点として、地域住民とボランティア団体、社会福祉法人、医療従事者、民間事業者など多様な主体が協働で行うイベントを年間で複数実施することで、「顔の見える関係」づくりと、地域と官民の連携体制の強化を図ることを目的とする。

多様な主体が互いにできることを相互理解し、買い物弱者、移動困難、デジタルデバインド、孤独・孤立等、津島圏域の課題を地域で解決する土壌づくりにつなげる。

■事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年10月23日～令和7年3月31日

【総事業費】

543,207円

【補助金交付決定額】

500,000円

【補助率】

特認活動（10分の10）※上限500,000円

■事業内容・成果

【取組内容】

- ① つてふで教室やスマホ教室など各種講座や教室の開設
- ② 安全な焚き火の体験学習など、屋外開催体験型講座の開設
- ③ 買物行こカーうらしり号による高齢者の外出支援事業
- ④ ふれあいモーニングや木育教室などの多世代交流事業
- ⑤ 独居高齢者戸別訪問

【成果】

地域と多様な主体の協働事業の中で関係性を深めることで「顔の見える関係」づくりが進んだ。小さな成功事例を重ねることで、「楽校うらしりに相談すれば何とかなる」という地域の信頼感の醸成につながった。

高齢者支援や多世代交流の実践を通じて、潜在的な社会課題の早期把握や解決のきっかけが生まれ、支援・受援を支える地域のネットワーク形成と官民連携による協働基盤の強化に寄与。



団体名・連絡先

【団体名】

浦知地区活性化協議会

【団体連絡先】

(mail) ayamisatoryoyu@gmail.com (電話番号) 0895-49-5530

事業名：アソビゴコロ活動拡大事業

■ 事業目的

【事業目的】

地域のイベントや活動に、人が本来持っている「遊びたい」「楽しみたい」というアソビゴコロを加え、20代から30代の若者が地域住民と自然に出会い、地域活動へ参加する入口を広げる。

また、社会的孤立の予防と地域連携の強化を図り、協働の担い手である青少年の育成とつながりづくりの促進を図る。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年10月8日～令和7年3月25日

【総事業費】

182,000円

【補助金交付決定額】

136,000円

【補助率】

開設・拡大活動（4分の3）

■ 事業内容・成果

【取組内容】

(1) 趣味活イベント

- ①ハーバリウム体験
- ②ハイキング教室
- ③ランニング講座(2回開催)

(2) 社会人サークル

- ①麻雀サークル
- ②卓球サークル

【成果】

趣味活イベントや社会人サークルを通じて、若者が気軽に参加できる交流の場が生まれ、世代を超えたつながりの形成が推進された。

また、地域活動への参加の入口として、新たな関係性が生まれ、若者が地域と関わるきっかけづくりとなった。楽しさを起点として、参加のハードルを下げることで、参加者の裾野を広げる取組みとして成果があった。



団体名・連絡先

【団体名】

アソビゴコロ

【団体連絡先】

(mail) asobigokoro.ehime@gmail.com (電話番号) 非公開

事業名：NPO交流会&語り部の会

■事業目的

【事業目的】

①NPO交流会

分野別の分科会を設け、NPO団体間の交流と学び合いを促進することで、団体同士が普段からつながり合い、自立的に活動を継続できる関係づくりを目指す。

②語り部の会

文化・歴史の伝承活動を行うNPO団体等とともに、災害や歴史について広く知ってもらい機会をつくり、団体間の相互理解と連携の強化、次世代への継承につなげる。

■事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和6年12月20日～令和7年3月15日

【総事業費】

337,387円

【補助金交付決定額】

337,000円

【補助率】

特認活動（10分の10）

■事業内容・成果

【取組内容】

参加団体の紹介カードを用いた交流と、テーマ別ブースによる分科会を実施し、NPO団体同士が課題や活動内容の共有を行った。

また、記録・発信の方法や、青少年世代の参加を広げる工夫について、参加者と有識者が意見交換を行った。

【成果】

分野を超えた団体同士のつながりが生まれ、当日以外でも相談・支援をし合える関係性づくりが進んだ。また、情報共有と相互理解の促進により、NPO団体同士が連携して地域課題に向き合う協働の基盤強化につながった。

語り部の会では、文化・歴史の継承を青少年世代へつなぐ視点が共有され、NPO団体間の横連携と世代交流の促進へとつながった。



団体名・連絡先

【団体名】

特定非営利活動法人宇和島NPOセンター

【団体連絡先】

(mail) info@uwajima-npo-center.jp (電話番号) 0895-49-3563

事業名：宇和海フェス2025～輝く宇和海いいところフェスタ～

■ 事業目的

【事業目的】

宇和海の魅力を県内外に発信するとともに海洋ゴミ問題等の課題を広く共有し、持続可能な宇和海の実現を目指す。

また、宇和島海上保安部や宇和島水産高校等との連携により、啓発と交流の場を創出し、海を守る協働の輪を広げる。

■ 事業期間・総事業費・補助金等

【事業期間】

令和7年3月1日～令和7年3月31日

【総事業費】

830,712円

【補助金交付決定額】

500,000円

【補助率】

開設・拡大活動（4分の3）※上限500,000円

■ 事業内容・成果

【取組内容】

宇和島市大浦緑地帯で「宇和海フェス2025～輝く宇和海いいところフェスタ～」を開催。関係団体（宇和島海上保安部・宇和島市海洋ゴミ対策係・宇和島水産高校）が、宇和海の魅力やそれぞれの仕事内容、宇和海の現状と海洋ゴミ問題について説明・啓発を行った。

【成果】

宇和海の魅力と海洋ゴミ問題を一体的に伝えることで、来場への理解と関心、意識向上につながった。これまで、宇和海の現状と海洋ゴミの課題について関心の薄かった層にとっても気づきの場となった。

また、多様な主体が協働して地域課題に向き合う実践の場となり、宇和島海上保安部、行政、宇和島水産高校等が連携して発信することで、海を守るという取り組みへの共感と横のつながりが生まれた。



団体名・連絡先

【団体名】

宇和海遊漁船団体

【団体連絡先】

(mail) 非公開

(電話番号) 080-6383-4241